

2016年に大阪府立大と大阪市立大の統合を強行!

府市民置き去りの「都構想」推進へ

大阪維新の会の橋下大阪市長と松井府知事は「大阪府市新大学構想会議」を設置、昨年12月末に出された<提言>を受けて、大阪府立大学と大阪市立大学の統合を、わずか3年で、やろうとしています。

ねらいは、「それぞれの大学にかかる100億円の運営費交付金（そのほとんどは国庫補助金）の見直し」「総合大学として日本やアジアで競争できる強い大学」「大阪における公立大学の意義の見直し」と<提言>に書かれています。

大学よりも、大型開発優先か

橋下市長が知事の時代の2009年、「運営費交付金もったいない」と府大に「効率化」をもとめる「改革」を要求。さらに、「大阪に公立大学は二つもいらない」と、就任当初から市大との「統合」をねらっていました。

大学に使う費用を、関西財界のための大型公共事業（カジノ誘致や関西国際空港アクセス強化など）にまわしたいがためです。

橋下氏は就任以来、芸術・文化を一貫して軽視し、破壊（国際児童文学館、府立図書館、文楽補助金など）してきました。府立大と市立大の統合はその流れを引き継ぐものです。

今回、両大学の理系を中心に「地球未来理工学部」（仮称）を新設し、新エネルギーや防災のほか、新薬開発などの研究に重点投資して、競争力を高め、獣医学部と看護学部を新設するとしています。また、橋下「教育改革」に沿った幹部教員を育成するための教育系大学院も新設するといいます。

強く、競争力のある大学をつくり、「優良」大学になれば、「地下鉄民営化」のように将来は民営化もありというのでしょうか。

「統合」は府市民の願いではありません

府立大も市立大も、戦前からの伝統を引き継いで、それぞれの校風がつくられ、府民や市民の貴重な税金が使われ、総合大学として地域に貢献してきました。また比較的学費の安い、自宅から通える公立大学としても大きな存在であり、全国的にも貴重なものです。

両大学の「統合」構想は、大学内部や府市民の要求から出たものでは決してありません。

大阪府自身のアンケート（2009年）「府民が求める公立大学像」でも、「できるだけ安い授業料で多くの学生に大学教育の機会を与える」「新しい技術や製品の開発を通じて地域経済に貢献する」が上位を占めています。

大阪は今、雇用・医療・福祉・教育・文化などにさまざまな問題をかかえています。学校教育法にある「地域社会での知的・文化的拠点としての中心的役割を担い」、府民のいのちとくらしを守る目線に立った公立大学の存在が今こそ、大阪に必要なのではないでしょうか。

2013年4月13日

大阪府立大学問題を考える会

野崎 清 連絡先 (090-9050-4177)

中井 英二 (090-2060-3106)

大阪市立大学の統合問題を考える会（準）和氣 清実

(090-6736-7992)